

福島第一原子力発電所 5・6号機の現状について

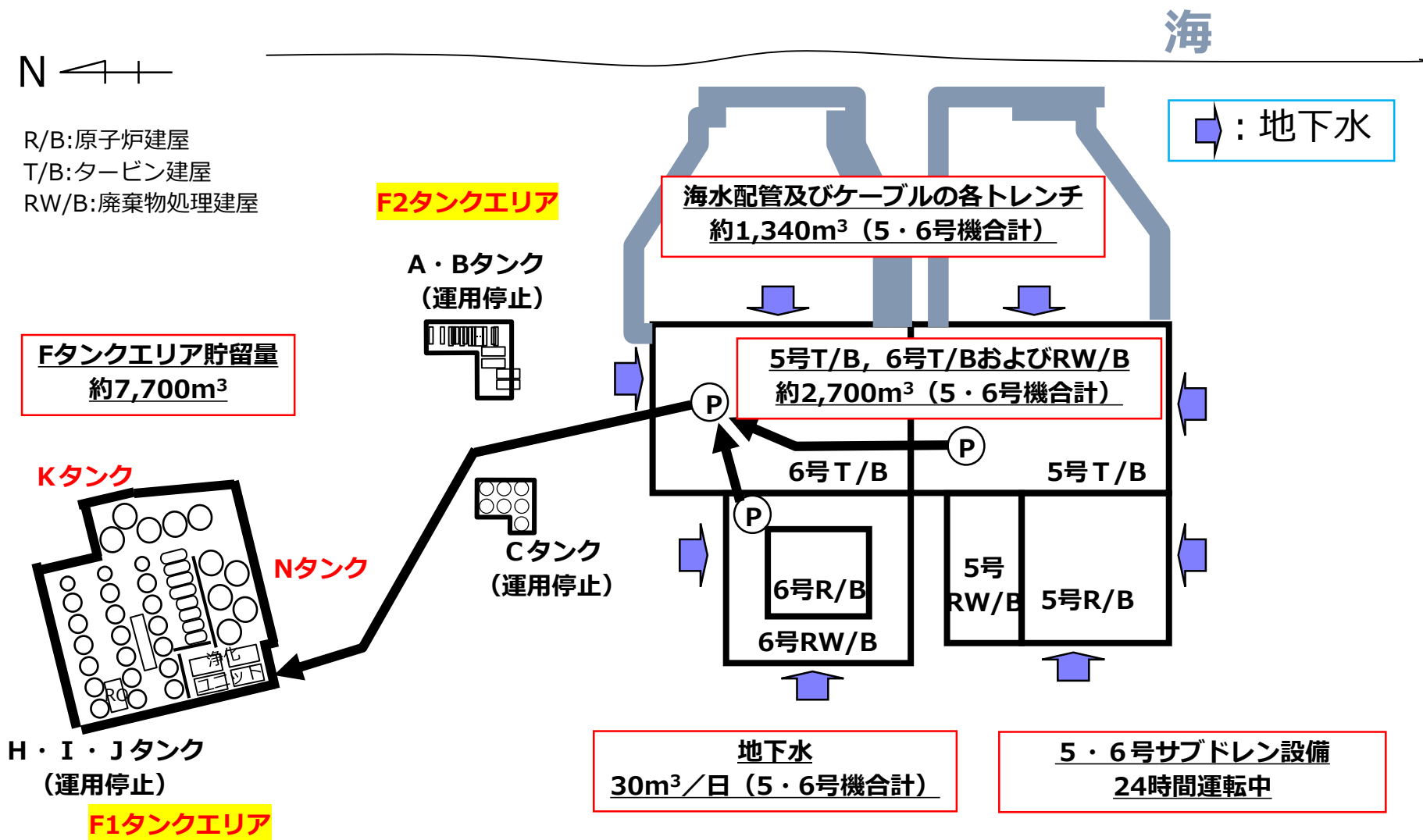
(5・6号機低レベル滞留水の状況)

2024年9月26日

東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

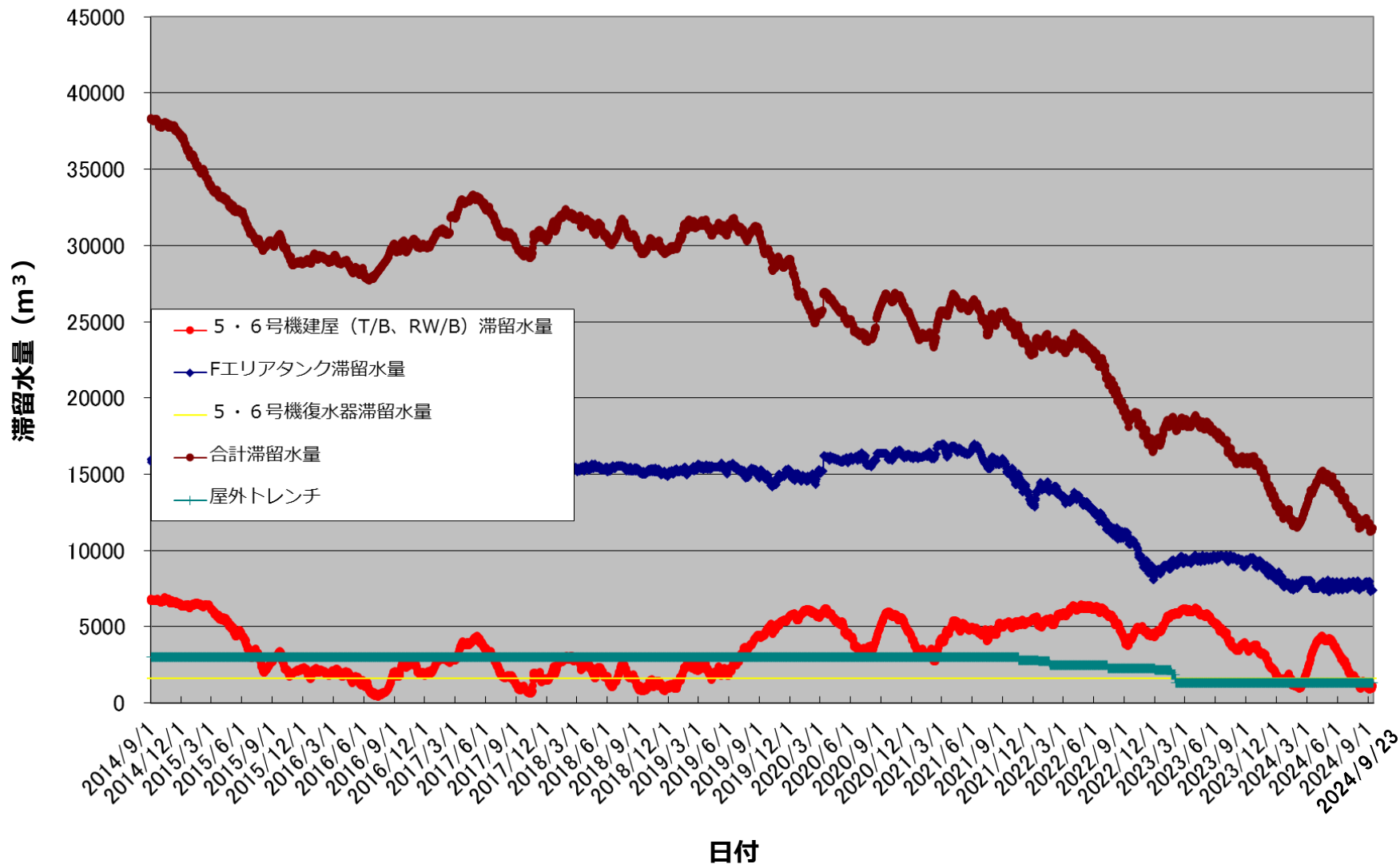
5・6号機 低レベル滞留水量の合計約11,740m³ (2024.9.23現在)



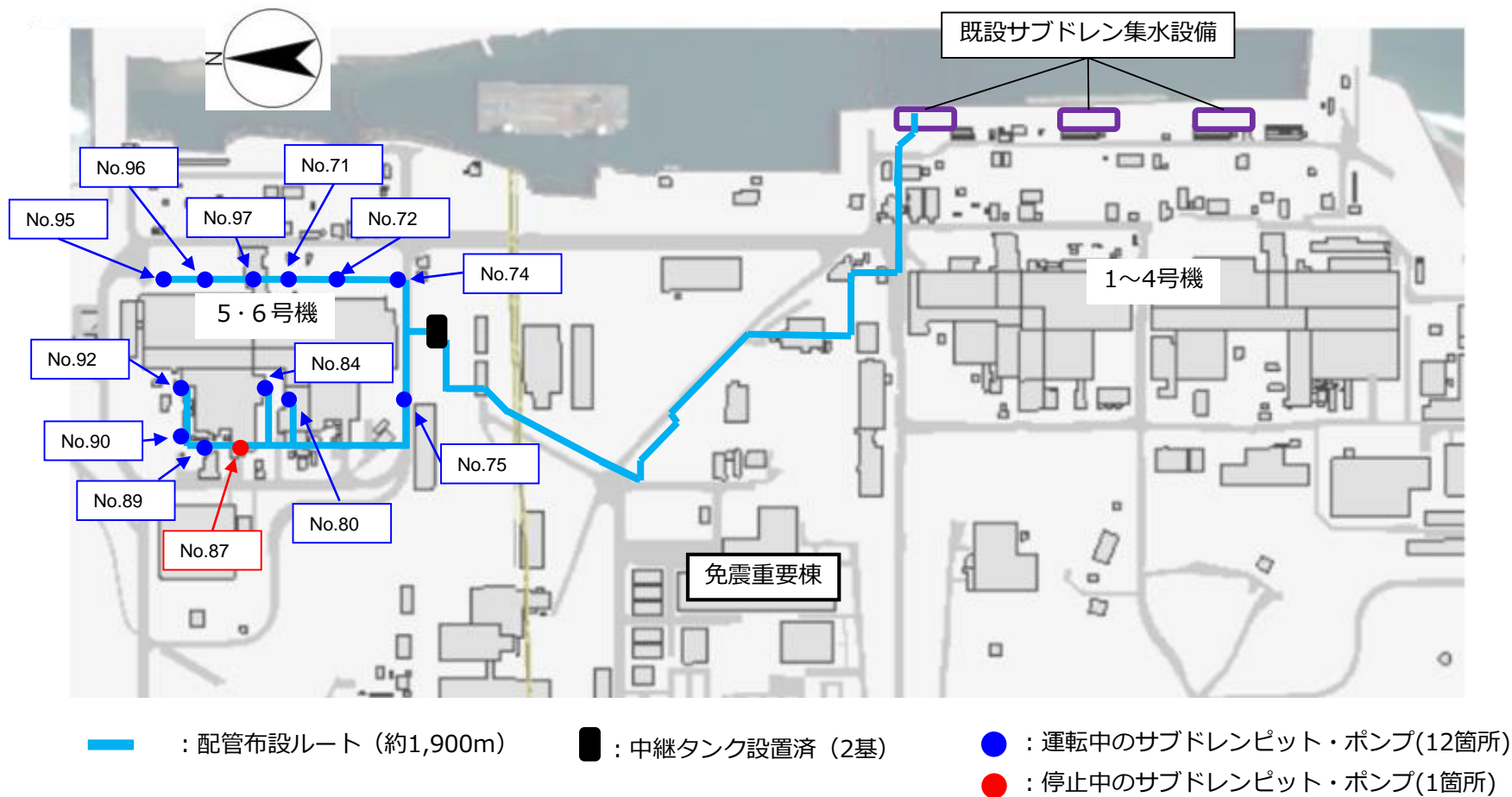
※1 : 5・6号機滞留水は、1-4号機滞留水と比べ放射能濃度が十分低いため、区別する目的で「低レベル滞留水」と記載する。

- 2014年9月から2024年9月までの5・6号機 低レベル滞留水量の推移は以下のとおり

5・6号機滞留水量の推移



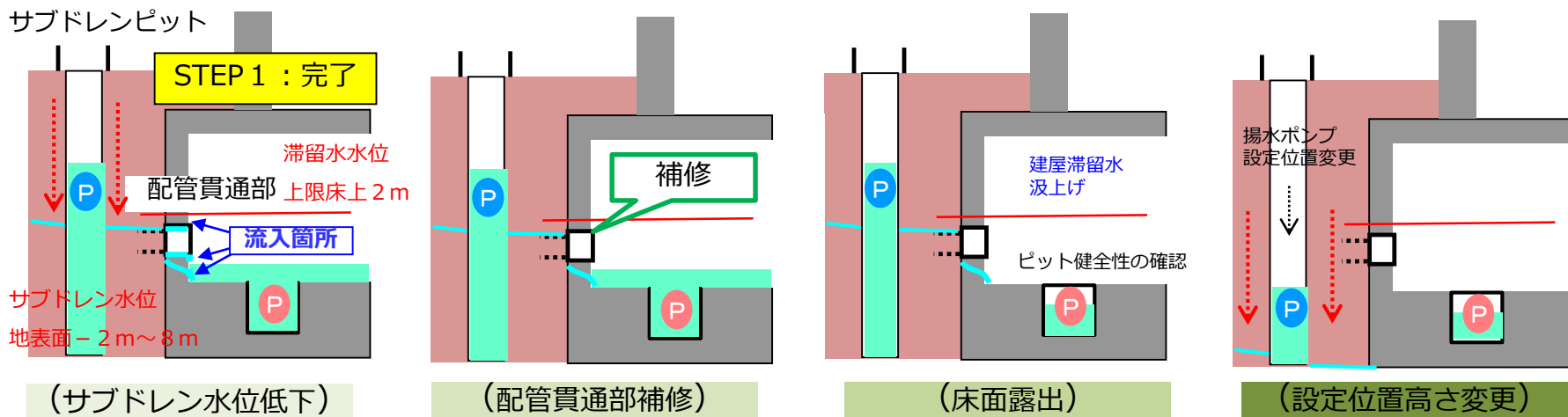
- 5・6号機サブドレン設備は2022年3月28日より運用（移送）を開始し、現在は24時間運転中※2



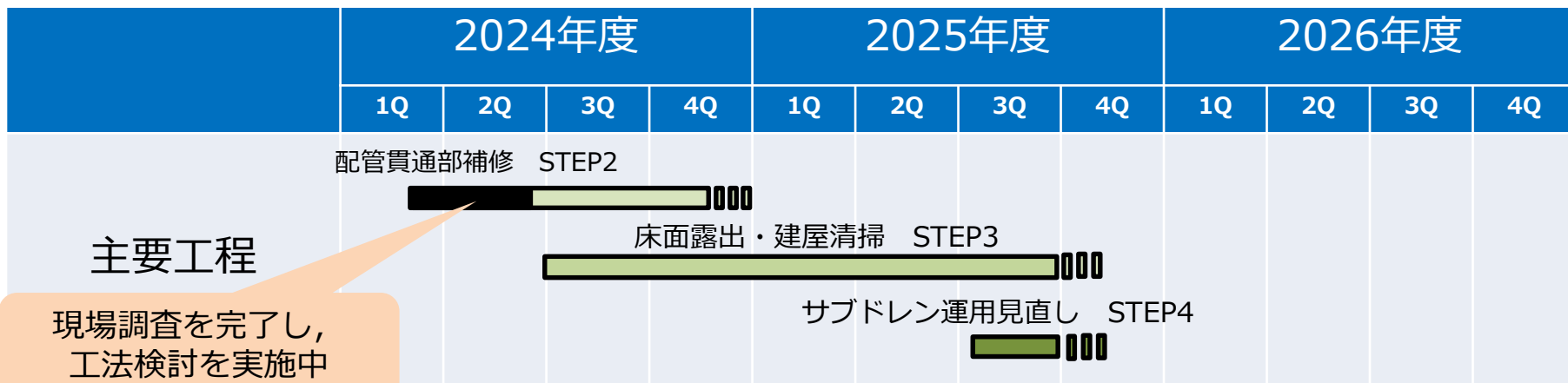
※2：汲み上げ量の監視を行いながら、サブドレンピット・ポンプの運転計画を立てている。

5・6号機各建屋の滞留水低減対策

■ 5・6号機建屋への地下水流入量を低下させるため、下記の対策を進めていく。



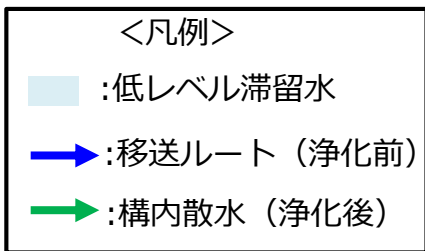
<凡例> **P** (blue) : サブドレン揚水ポンプ **P** (red) : 滞留水移送ポンプ ■ (red) : 地面・土中 ■ (grey) : 各建屋壁面・構築物



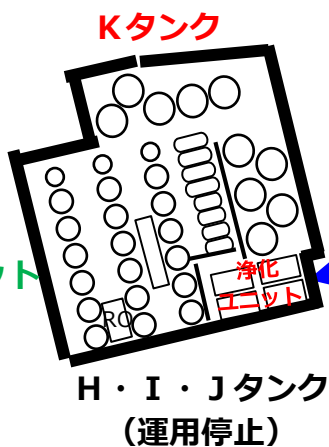
- ✓ 5・6号機各建屋の滞留水低減対策に併せて、建屋周辺の低レベル滞留水の処理を進めていく。
- ✓ 5・6号機周辺トレンチ等の低レベル滞留水は建屋内滞留水と同等の水質であるため、建屋内と同様に浄化ユニットによる処理を行う。
- ✓ 建屋内に塩素濃度が高い低レベル滞留水があるため、塩素濃度を考慮しながら処理を行う。
- ✓ 2024年度下期～2026年度にかけて処理を実施する予定。



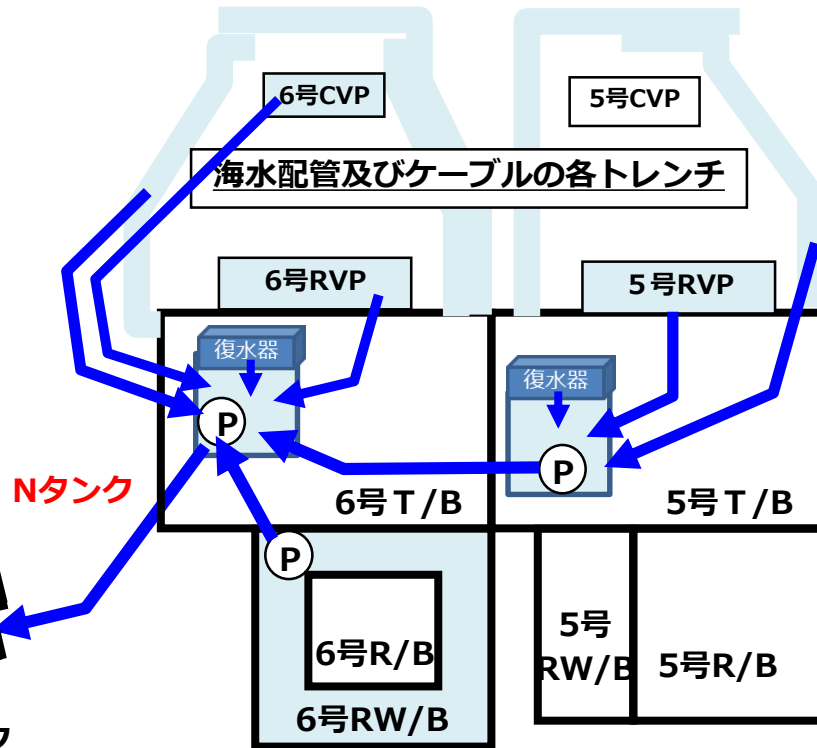
R/B:原子炉建屋
 T/B:タービン建屋
 RW/B:廃棄物処理建屋
 RVP:逆洗弁ピット
 CVP:循環水吐出弁ピット



浄化ユニット
 処理後



F1タンクエリア



5・6号機屋外トレンチ等低レベル滞留水の濃度

下記に示すとおり、屋外トレンチ等の低レベル滞留水の水質は5・6号機低レベル滞留水と同等であることから、構内散水基準まで浄化することは可能である。

分析項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	全β放射能 (Bq/L)	水量 (m ³)
5号復水器※1	0.7	6.6	12.8	約400※2
6号復水器※1	分析時期調整中			約1200※2
6号CVP (吐出弁ピット)	0.7	3.7	5.1	約850
5号RVP (逆先弁ピット)	3.0	19.2	0.7	約1500
6号RVP (逆先弁ピット)	1.5	11.3	0.7	約1500
5号T/B滞留水	0.6	0.5	10.4	約1100※2
6号T/B滞留水	0.7	7.5	26.0	
6号機RW滞留水	1.4	11.3	63.2	
5号機トレンチ	0.8	1.4	6.0	約1340
6号機トレンチ	7.1	7.9	6.0	

※1：震災当時の津波海水を含む低レベル滞留水を回収したもの

※2の和：スライド1の5号T/B、6号T/BおよびRW/B

約2,700m³ (5・6号機合計)



R/B:原子炉建屋
T/B:タービン建屋
RW/B:廃棄物処理建屋

